

3. 事業報告書

令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

(1) 農作物共済関係

(引 受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料(△) (B)	手 持 共済掛金 (A) ± (B)	
			人	a	円	円	円	円	
2年産	水稻	一 筆	26,174	1,441,420.0	8,835,675,643	25,744,041	/	/	
		全 相 殺	130	156,129.0	1,096,384,416	16,932,085			
		半 相 殺	1	41.8	289,152	1,517			
		インデックス	15	4,621.8	35,934,720	64,320			
		計	延 26,320 実 25,911	1,602,212.6	9,968,283,931	42,741,963			42,646,708
	麦	一 筆	7	4,974.7	8,183,359	156,538	/	/	
		災害収入	150	192,521.0	622,133,202	23,815,824			
		計	延 157 実 156	197,495.7	630,316,561	23,972,362			△ 13,204,375
	3年産	麦	一 筆	8	4,045.1	6,442,094	134,702	/	/
			災害収入	133	175,442.5	600,193,489	21,721,303		
計			延 141 実 140	179,487.6	606,635,583	21,856,005	△ 15,289,609		

(参 考)

年産	共済目的	事 項	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金
2年産	水稲	前年度対比	% 97.6	% 92.0	% 94.1	% 108.3
		事業計画対比		% 93.1	% 95.7	
		10a当たり			円 62,216	
		1組合員当たり		a 60.9	円 378,734	
	麦	前年度対比	% 84.4	% 81.6	% 80.7	% 84.1
		事業計画対比		% 82.0	% 87.5	
		10a当たり			円 31,915	
		1組合員当たり		a 1,258	円 4,040,491	
3年産	麦	前年度対比	% 89.7	% 90.9	% 96.2	% 91.2
		事業計画対比		% 74.5	% 84.2	
		10a当たり			円 33,798	
		1組合員当たり		a 1,273	円 4,333,111	

(ア) 引受の概況

2年産水稲 引受戸数は前年対比97.6%、引受面積は92.0%、共済金額は94.1%であった。用途ごとの引受面積の占める割合は主食用は93.0%、飼料用は6.9%、米粉用は0.1%となった。

3年産麦 引受戸数は16戸減少し（前年対比89.7%）、引受面積は180ha減少し（前年対比90.9%）、共済金額は2,368万円減少した（前年対比96.2%）。引受減少の主な理由は収入保険への移行による。

(被 害)

共済目的	引受方式	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額
		人	円	%
水稲	一 筆	1,991	153,331,720	1.7
	全 相 殺	41	47,785,204	4.4
	半 相 殺	0	0	0.0
	インデックス	0	0	0.0
	計	2,032	201,116,924	2.0
麦	一 筆	4	438,132	5.4
	災害収入	10	2,081,374	0.3
	計	14	2,519,506	0.4
合計		2,046	203,636,430	1.9

(イ) 被害の概況

<水稲>

移植期以降に、西濃・岐阜地域でジャンボタニシによる食害があった。6月中旬以降、7月の長雨及び日照不足により中濃、飛騨及び岐阜地域でいもち病などが発生した。7月上旬以降、不稔が中濃、岐阜、飛騨地域で発生した。7月以降に中山間地域において獣害があった。また、7月中旬以降に風雨により倒伏が発生し、穂発芽した耕地が県内各地で発生した。

9月中旬以降には晩生品種において岐阜、西濃を中心に、一部中濃、東濃地域でトビイロウンカによる被害が多く発生した。

金額被害率は2.0%（前年0.4%）、支払共済金は2億112万円となり、前年より1億6,190万円増加した。

一筆方式は被害面積736.3ha、共済減収量894,107kg、金額被害率は1.7%（前年0.4%）。

全相殺方式は被害面積420.1ha、共済減収量295,972kg、金額被害率4.4%（前年0.4%）。

農林水産省東海農政局による作況指数は、県下96で、西南濃96、中濃95、東濃98、飛騨99であった。

<麦>

播種期から育成期にかけての降雨があり過湿状態が続いた為、発芽不良による欠株や根の活力低下により穂数、穂長が確保できず、生育不良となり減収となった。雑草が多く収穫低下の圃場もあり、一部山沿いの圃場では、獣害が発生した。

一筆方式は被害面積10.9ha、共済減収量4,554kg、金額被害率5.4%（前年2.3%）。

災害収入共済方式は、生産金額の減少額2,081,374円、金額被害率0.3%（前年0.4%）。

(ウ) 評価の概況

< 水稻 >

一筆方式では、被害の実態に応じた評価地区を設定し悉皆調査を行い、592筆抜取(実測)調査をして悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。

全相殺方式では、114戸のJA等出荷データによる出荷量調査を行い、適正な損害評価に努めた。

損害評価会を一筆方式及び半相殺方式は12月18日に、全相殺方式及び地域インデックス方式は3月15日に開催し、当初評価高案の諮問・答申を経て、組合員へ共済金を支払った。

< 麦 >

一筆方式では、被害の実態に応じた評価地区を設定し悉皆調査を行い、20筆抜取(実測)調査をして悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。

災害収入共済方式では被害申告のあった150戸の出荷量を調査し、適正な損害評価に努めた。

損害評価会を一筆方式は7月24日に、災害収入共済方式は10月29日に開催し、当初評価高案の諮問・答申を経て、組合員へ共済金を支払った。

(支 払)

共済目的	引受方式	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
水稲	一 筆	12月25日～ 1月13日	円 153,331,720	円	円	円	円	円	% 100.0
	全 相 殺	3月25日	47,785,204					0	100.0
	半 相 殺	-	0					0	100.0
	インデックス	-	0					0	100.0
	計		201,116,924	0	85,388,671	115,728,253	0	0	100.0
麦	一 筆	8月6日	438,132					0	100.0
	災害収入	11月10日	2,081,374					0	100.0
	計		2,519,506	0	2,519,506	0	0	0	100.0
合計			203,636,430	0	87,908,177	115,728,253	0	0	100.0

(損害防止)

(1) 獣害対策

獣害防止のため組合員及び防除団体等へ捕獲檻の貸与を継続し、有害鳥獣駆除を支援した。

(2) 損害防止助成

補助事業者等が行った農作物損害防止事業に助成した。

- ・病虫害共同防除助成 (50団体)
- ・電気牧柵購入補助 (29団体)
- ・防除報作成補助 (37,700部)

(2) 家畜共済関係
(引 受)

区分	項目	有資格 頭数	事業計画 頭数	引受頭数	引受頭数/ 事業計画頭数	共済金額	徴収 共済掛金	納入 保険料	交付金	手持 共済掛金
		頭	頭	頭	%	千円	円	円	円	円
死亡 廃用 共済	搾乳牛	3,546	4,356	4,745	109	798,534	19,530,960	/	/	/
	繁殖用雌牛	5,709	8,264	8,585	104	2,340,688	22,306,003			
	育成乳牛 (子牛等)	1,830	3,442 3,377	3,590 348	104	718,296	2,438,350			
	育成・肥育牛 (子牛等)	24,155	41,110 10,770	44,432 3,444	108	15,995,010	110,400,757			
	繁殖用雌馬	17	15	16	107	2,828	34,378			
	育成・肥育馬	141	43	106	247	20,349	926,557			
	種豚	3,997	1,975	2,961	150	172,168	19,989			
	肉豚	39,768	18,105	20,311	112	241,488	68,123			
	種雄牛	10	4	1	25	536	7,959			
	種雄馬	0	0	0	0	0	0			
	計	79,173	77,314	84,747	110	20,289,897	155,733,076			
疾病 傷害 共済	乳用牛	5,376	4,191	4,313	103	71,745	24,942,114	/	/	/
	肉用牛	29,864	29,516	31,800	108	229,893	29,870,979			
	一般馬	158	47	76	162	835	161,532			
	種豚	3,997	0	0	0	0	0			
	種雄牛	10	4	5	125	178	5,292			
	種雄馬	0	0	0	0	0	0			
計	39,405	33,758	36,194	107	302,651	54,979,917	0	54,976,945	109,956,862	
合計	118,578	111,072	120,941	109	20,592,547	210,712,993	0	210,169,151	420,882,144	

(参 考)

区分	共済目的	引受戸数	事 項	組合員数	引受頭数	共済金額	徴収共済掛金
死亡 廃用 共済	搾乳牛	91	前年度対比	% 103.4	% 109.6	% 120.7	% 101.5
			1 頭当たり			円 168,290	
			1 組合員当たり		頭 52.1	円 8,775,101	
	繁殖用雌牛	358	前年度対比	% 98.6	% 102.6	% 114.3	% 103.8
			1 頭当たり			円 272,649	
			1 組合員当たり		頭 24.0	円 6,538,234	
	育成乳牛	84	前年度対比	% 106.3	% 101.1	% 99.5	% 199.5
			1 頭当たり			円 200,083	
			1 組合員当たり		頭 42.7	円 8,551,148	
	育成・肥育牛	488	前年度対比	% 100.0	% 103.9	% 106.2	% 101.7
			1 頭当たり			円 359,989	
			1 組合員当たり		頭 91.0	円 32,776,659	
	繁殖用雌馬	8	前年度対比	% 100.0	% 88.9	% 59.2	% 187.2
			1 頭当たり			円 176,774	
			1 組合員当たり		頭 2.0	円 353,548	
	育成・肥育馬	15	前年度対比	% 107.1	% 252.4	% 216.5	% 394.2
			1 頭当たり			円 191,967	
			1 組合員当たり		頭 7.1	円 1,356,567	
	種豚	6	前年度対比	% 150.0	% 169.5	% 170.6	% 152.9
			1 頭当たり			円 58,145	
			1 組合員当たり		頭 493.5	円 28,694,667	

区分	共済目的	引受戸数	事 項	組合員数	引受頭数	共済金額	徴収共済掛金
死亡廃用共済	肉豚	11	前年度対比	% 275.0	% 168.1	% 178.5	% 191.3
			1頭当たり			円 11,890	
			1組合員当たり		頭 1,846.5	円 21,953,455	
	種雄牛	1	前年度対比	% 20.0	% 20.0	% 13.1	% 10.8
			1頭当たり			円 535,600	
			1組合員当たり		頭 1.0	円 535,600	
疾病傷害共済	乳用牛	91	前年度対比	% 103.4	% 101.1	% 98.5	% 88.7
			1頭当たり			円 16,635	
			1組合員当たり		頭 47.4	円 788,408	
	肉用牛	478	前年度対比	% 100.4	% 103.1	% 102.3	% 88.6
			1頭当たり			円 7,229	
			1組合員当たり		頭 66.5	円 480,947	
	一般馬	17	前年度対比	% 113.3	% 155.1	% 163.6	% 191.0
			1頭当たり			円 10,985	
			1組合員当たり		頭 4.5	円 49,111	
	種雄牛	5	前年度対比	% 100.0	% 100.0	% 104.7	% 94.8
			1頭当たり			円 35,600	
			1組合員当たり		頭 1.0	円 35,600	

(ア) 引受の概況

県計では廃業等により加入戸数は延べ16戸減少したが、引受頭数は12,854頭増加し、共済金額も1,547,401千円増加した。特に育成・肥育馬については新規開業で59頭（1戸）、種豚及び肉豚については有資格頭数（戸数）の豚熱からの養畜の再開があり、引受で種豚が1,214頭（2戸）、肉豚が8,225頭（6戸）増加した。

(事 故)

区分	項目	死廃共済			支払共済金 円
		死亡頭数	廃用頭数	総頭数	
搾乳牛	頭	139	206	345	34,134,597
繁殖用雌牛	頭	95	78	173	35,936,800
育成乳牛 (子牛等)	頭	90	6	96	3,664,725
	頭	82			
育成・肥育牛 (子牛等)	頭	868	207	1,075	218,618,607
	頭	554			
繁殖用雌馬	頭	0	0	0	0
育成・肥育馬	頭	1	2	3	401,750
種豚	頭	0	0	0	0
肉豚	頭	0	0	0	0
種雄牛	頭	0	0	0	0
種雄馬	頭	0	0	0	0
計		1,193	499	1,692	292,756,479

区分	項目	疾病傷害共済	
		件数	支払共済金 円
乳用牛	件数	4,382	52,587,871
肉用牛	件数	15,106	139,275,565
一般馬	件数	15	154,726
種豚	件数	0	0
種雄牛	件数	0	0
種雄馬	件数	0	0
計	件数	19,503	192,018,162

(イ) 事故発生の概況

○死廃事故

全畜種合計における前年対比で頭数は6頭（前年対比99.6%）減少したが、支払共済金は30,570,801円（前年対比111.7%）増加した。制度改正で区分が変更になったため、乳用牛は135頭（前年対比76.6%）減少したが、肉用牛は163頭（前年対比115.0%）増加した。

○病傷事故

全畜種合計における前年対比で件数は924件（前年対比95.5%）減少し、支払共済金も7,809,403円（前年比96.1%）減少した。病傷事故のほとんどが牛で発生しており、発生に占める割合は件数、支払保険金ともに99.9%となっている。

(損害防止)

実施種目	対象頭数又は回数	経費概算	摘 要
特定損害防止	頭 (回) 0	円 0	未実施
一般損害防止	56,899	5,190,103	
健康検査	184(12)	0	家畜診療に合わせ無獣医地域の検診を行った。
予防衛生措置	48,410	1,055,150	乳牛では分娩前後の疾病、白血病の発生予防を行った。肉用牛、豚では肺炎及び細菌性下痢症の発生防止を行った。
飼養管理指導	172	140,000	代謝プロファイルテストを用いて飼養改善指導を行った。
ワクチン助成	8,317	3,994,953	肉用牛の下痢予防のためのワクチン接種に助成金を支払った。

(診療所)

診療所名	職員数	管内		診療件数		損害防止事業			適用
		有資格頭数	加入頭数	共済事故	事故外	一般	特損	経費概算	
岐阜県農業共済組合 家畜診療所	人 9	頭 39,405	頭 33,758	頭 1,573	頭 929	頭(回) 48,766	頭(回) 0	円 1,150,960	無獣医地区の検診を含む

(3) 果樹共済関係

(引 受)

年度	果樹区分		組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料(△) (B)	手持共済掛金 (A) ± (B)
			人	a	円	円	円	円
30 年度	かき	災害収入共済方式(元年産)	153	5,390.1	76,143,000	1,973,628	603,054	2,576,682
		計	153	5,390.1	76,143,000	1,973,628	603,054	2,576,682
元 年 度	りんご	半相殺減収総合一般方式(2年産)	3	283.5	7,575,000	270,975	△ 25,937	245,038
		半相殺減収総合短縮方式(元年産)	3	50.6	1,880,000	40,680	△ 26,812	13,868
		半相殺特定危険方式(元年産)	6	1,010.7	29,092,000	448,725	△ 18,612	430,113
		計	12	1,344.8	38,547,000	760,380	△ 71,361	689,019
	なし	半相殺特定危険方式(2年産)	43	2,447.5	120,253,000	609,638	△ 239,745	369,893
		計	43	2,447.5	120,253,000	609,638	△ 239,745	369,893
	もも	半相殺減収総合一般方式(2年産)	1	339.2	7,516,000	101,742	△ 21,829	79,913
		計	1	339.2	7,516,000	101,742	△ 21,829	79,913
	かき	半相殺減収総合短縮方式(2年産)	142	3,833.0	70,223,000	1,730,942	683,080	2,414,022
		災害収入共済方式(2年産)	116	3,696.5	50,556,000	1,040,930	338,212	1,379,142
		計	258	7,529.5	120,779,000	2,771,872	1,021,292	3,793,164
	合計			314	11,661.0	287,095,000	4,243,632	688,357
2 年 度	りんご	半相殺減収総合一般方式(3年産)	4	408.7	10,331,000	466,246	△ 114,128	352,118
		半相殺減収総合短縮方式(2年産)	2	28.1	1,024,000	27,796	△ 18,320	9,476
		半相殺特定危険方式(2年産)	7	1,208.7	33,874,000	723,680	△ 29,989	693,691
		計	13	1,645.5	45,229,000	1,217,722	△ 162,437	1,055,285
	なし	半相殺特定危険方式(3年産)	36	2,062.0	101,339,000	536,385	△ 196,648	339,737
		計	36	2,062.0	101,339,000	536,385	△ 196,648	339,737
	もも	半相殺減収総合一般方式(3年産)	1	125.0	3,637,000	61,830	△ 25,154	36,676
		計	1	125.0	3,637,000	61,830	△ 25,154	36,676
	かき	半相殺減収総合短縮方式(3年産)	127	3,471.0	63,943,000	1,503,740	577,580	2,081,320
		災害収入共済方式(3年産)	98	2,961.0	39,880,000	830,227	269,825	1,100,052
		計	225	6,432.0	103,823,000	2,333,967	847,405	3,181,372
	合計			275	10,264.5	254,028,000	4,149,904	463,166

(ア) 引受の概況

	引受面積 a	結果樹面積 a	引受率 %	前年対比 %	計画達成率 %
りんご	1,645.5	8,200	20.1	122.4	118.3
なし	2,062.0	11,700	17.6	84.2	80.8
もも	125.0	6,500	1.9	36.9	36.8
かき	6,432.0	122,000	5.3	85.4	81.1

りんごは新規加入等で1戸増となり、300.7aの面積増となった。
 なしは中止、収入保険への移行で7戸減となり、385.5aの面積減となった。
 ももは新規加入が1戸あったが、収入保険への移行が1戸あり、214.2aの面積減となった。
 かきは中止、収入保険の移行等で33戸減となり、1,097.5aの面積減となった。

(被 害)

果樹区分		被害 組合員数	共済金	共済金 共済金額
		人	円	%
りんご	半相殺減収総合一般方式（2年産）	2	673,300	8.9
	半相殺減収総合短縮方式（2年産）	2	268,230	26.2
	半相殺特定危険方式（2年産）	0	0	0.0
なし	半相殺特定危険方式（2年産）	0	0	0.0
もも	半相殺減収総合一般方式（2年産）	0	0	0.0
かき	半相殺減収総合短縮方式（2年産）	47	3,265,520	4.7
	災害収入共済方式（元年産）	17	2,239,501	2.9
計		68	6,446,551	2.0

(イ) 被害の概況

りんご 飛騨地域の減収総合一般及び東濃地域の短縮方式で、カメムシの吸汁害、梅雨の長雨等により斑点落葉病、褐斑病が発生した。また、東濃地域の一部圃場では赤衣病、飛騨地域の一部圃場ではすす病、腐乱病、サルの食害が発生した。東濃地域は異常災害、飛騨地域は通常災害となった。
特定危険方式は無被害であった。

なし 無被害。
もも 無被害。

かき 半相殺方式では、カメムシの発生量が例年より多く、吸汁害が山沿いの園地だけでなく平野部まで発生した。また、山沿いの園地では炭疽病が発生した。岐阜地域は通常災害、西濃地域は異常災害となった。
元年産の災害収入方式では、カメムシの吸汁害や高温、少雨により干害が発生したが、通常災害となった。

(ウ) 評価の概況

りんご 東濃地域、飛騨地域で実測調査を実施し、適正な損害評価に努めた。

かき 岐阜地域は検見及び実測調査、西濃地域は実測調査を実施し、適正な損害評価に努めた。

(支 払)

果樹区分	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金	
			保険金	手持掛金 充当額	法定積立 金充当額	特別積立 金充当額	その他		
		円	円	円	円	円	円	%	
りんご	半相殺減収総合一般方式（2年産）	3月15日	673,300	0	245,038	41,301	386,961	0	100.0
	半相殺減収総合短縮方式（2年産）	3月15日	268,230	222,832	9,476	35,922	0	0	100.0
	半相殺特定危険方式（2年産）	-	0	0	0	0	0	0	
なし	半相殺特定危険方式（2年産）	-	0	0	0	0	0	0	
もも	半相殺減収総合一般方式（2年産）	-	0	0	0	0	0	0	
かき	半相殺減収総合短縮方式（2年産）	2月15日	3,265,520	482,250	2,414,022	369,248	0	0	100.0
	災害収入共済方式（元年産）	5月25日	2,239,501	0	2,239,501	0	0	0	100.0
計			6,446,551	705,082	4,908,037	446,471	386,961	0	100.0

(4) 畑作物共済関係

(引 受)

年度	項目	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は 納入保険料(B)	手持共済掛金 (A±B)
	引受方式						
2 年 度		人	a	円	円	円	円
	一筆大豆	13	4,860.8	8,049,029	258,712		
	全相殺大豆	117	141,524.4	316,557,875	16,771,512		
	計	延 130 実 127	146,385.2	324,606,904	17,030,224	962,525	17,992,749

(参 考)

年度	共済目的	事 項	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金
2 年 度	大豆	前年度対比	% 83.0	% 79.0	% 80.1	% 92.6
		事業計対比		% 79.6	% 85.1	
		10a当たり			円 22,175	
		1組合員当たり		a 1,152.6	円 2,555,960	

(ア) 引受の概況

引受戸数は26戸減少（前年対比83.0%）、引受面積は390ha減少し（前年対比79.0%）、共済金額は8,041万円減少した（前年対比80.1%）。引受減少の主な理由は収入保険への移行による。

(被 害)

引受方式	項目	被害組合員数	共 済 金	共済金 共済金額
		人	円	%
一筆大豆		8	3,342,942	41.5
全相殺大豆		63	34,152,467	10.8
計	延	71	37,495,409	11.6
	実	71		

(イ) 被害の概況

発芽期～生育期の6月中旬及び7月上旬～7月下旬、開花期～子実肥大・登熟期の8月下旬～9月上旬に多雨及び日照不足があった。また、播種適期に降雨が続いたため、圃場条件が悪く播種作業が遅れ、本格的な播種作業は8月中旬までとなった。

多雨及び日照不足で土壌の過湿状態が続いたため、発芽不良・欠株が発生し、さらに根の活力低下により生育が停滞し株の伸長が低くなるなど生育不良となり莢つきも悪く減収した。一部圃場で落葉が進まず青立ちが発生した。

山沿いを中心にシカによる食害が発芽後から断続的に発生した。

12月中旬～下旬にかけて降雪があり山間部で収穫が1月にずれ込み、一部で軟粒が発生した。

一筆方式は被害面積32.4ha、共済減収量11,541kg、金額被害率41.5%（前年25.4%）。

全相殺方式は被害面積645.4ha、共済減収量159,271kg、金額被害率10.8%（前年6.5%）。

大豆共済は、異常災害となった。

(ウ) 評価の概況

一筆方式では、被害の実態に応じた評価地区を設定し悉皆調査を行い、25筆抜取(実測)調査をして悉皆調査との単収差を計算するとともに見回り調査も実施し当初評価高案を作成した。

全相殺方式では、114戸のJA等出荷データによる出荷量調査を行い、適正な損害評価に努めた。

損害評価会を一筆方式は1月28日に、全相殺方式は3月17日に開催をし、当初評価高案の諮問・答申をへて国に当初評価高を提出した。異常災害であったため、国からの認定が下りた後に組合員へ共済金を支払った。

(支 払)

引受方式	項目	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払 共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
			円	円	円	円	円	円	%
	一筆大豆	2月18日	3,342,942						100.0
	全相殺大豆	3月29日	34,152,467						100.0
	計		37,495,409	17,531,285	17,992,749	0	0	1,971,375	100.0

(5) 園芸施設共済関係
(引 受)

施設区分		項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A±B)
			人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ガラス室	I類 (木造)									
	II類 (鉄骨)		43	72	1,018	1,229,880	966,110	615,976	516,839	1,132,815
プラスチックハウス	I類 (木竹)		1	1	3	518	414	5,334	5,172	10,506
	II類 (パイプ)		653	2,724	6,184	1,270,934	960,497	7,847,604	3,162,785	11,010,389
	III類 (鉄骨下)		120	193	1,676	615,658	451,366	1,696,671	1,031,509	2,728,180
	IV類(甲) (鉄骨中)		61	98	1,107	533,061	404,373	1,079,942	976,931	2,056,873
	IV類(乙) (鉄骨中)		77	116	1,557	900,353	703,984	854,474	770,190	1,624,664
	V類 (鉄骨上)		9	18	85	45,065	29,415	54,727	25,284	80,011
	VI類 (雨よけ等)		846	15,593	32,686	3,781,982	2,868,673	34,554,348	18,751,348	53,305,696
	VII類 (多目的ネット)									
計			1,810	18,815	44,316	8,377,451	6,384,832	46,709,076	25,240,058	71,949,134

(ア) 引受の概況

新規加入者が、岐阜支所5戸、西濃支所44戸、中濃支所18戸、東濃支所12戸、飛騨支所19戸の合計98戸あり、引受実戸数は1,260戸（前年対比104.5%）となった。また、新たにJAの作物部会等5集団と協定を締結し、集団加入割引による加入推進を行った。新規加入者の内60戸は集団加入により増加した。引受棟数は503棟増加し前年対比102.7%、共済金額も1億6,070万円増加し前年対比102.6%となった。

(被 害)

項目 施設区分		被害			損害の額	共済金					共済金 共済金額
		組合員数	棟数	附帯 施設数		特定園 芸施設	附帯施設	施設内 農作物	撤去費用	合計	
		人	棟	基	円	円	円	円	円	円	%
ガラス室	I類 (木造)										
	II類 (鉄骨)	1	1	0	36,211	28,968	0	0	0	28,968	0.00
プラスチックハウス	I類 (木竹)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	II類 (パイプ)	26	40	0	5,476,420	4,255,406	0	119,411	0	4,374,817	0.46
	III類 (鉄骨下)	2	2	0	92,658	74,087	0	0	0	74,087	0.02
	IV類(甲) (鉄骨中)	4	4	0	820,448	363,714	0	292,644	0	656,358	0.16
	IV類(乙) (鉄骨中)	3	3	0	1,743,682	1,185,129	0	71,422	0	1,256,551	0.18
	V類 (鉄骨上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	VI類 (雨よけ等)	23	42	0	3,459,522	2,440,171	0	0	0	2,440,171	0.09
VII類 (多目的ネット)											
計		59	92	0	11,628,941	8,347,475	0	483,477	0	8,830,952	0.14

(イ) 被害の概況

4月、5月、6月の風害、7月の豪雨による水害及び風害、9月の台風10号及び突風による被害、10月の風害、12月、1月、2月の雪害及び風害、3月の風害により、特定園芸施設、被覆材、施設内農作物に被害が発生した。また、西濃地域で火災事故が5月及び3月、施設内農作物の病虫害（青枯病）が5月及び10月に発生した。被害棟数は前年対比17.6%の92棟となった。また、復旧費用においては、平成30年9月の台風21号の復旧が令和2年4月に完了し、復旧部分の共済金374,034円を支払った。

(ウ) 評価の概況

大災害時に備え、各支所で損害評価方法について再確認等を行った。迅速な評価対応と早期支払いに努めた。

(支 払)

実支払共済金	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
	円	円	円	円	円	%
8,830,952	2,879,888	5,951,064	0	0	0	100.0

(6) 任意共済関係

1 建物共済
(引受関係)

区分 \ 項目	加入棟数	共済金額	共済掛金		一棟当たり 平均共済金額	任意保険料	保険手数料
			純共済掛金	賦課金			
火災共済	棟 33,674	万円 46,183,939	円 172,975,894	円 133,612,398	万円 1,372	円	円
総合共済	4,687	5,683,499	98,919,064	37,183,655	1,213		
計	38,361	51,867,438	271,894,958	170,796,053	1,352	158,236,285	48,295,109

(注) 総共済掛金額 442,691,011円
 任意保険割合 火災30%、総合(地震等)50%、総合(地震等以外)30%
 保険手数料割合 火災38.5%、総合27.5%

(ア) 引受の概況

総合共済の加入棟数は、前年よりも177棟増となり前年対比103.9%、共済金額は105.0%と増加したが、火災共済は2,321棟減となり前年対比93.6%、共済金額は93.9%と減少した。全体では加入棟数が前年対比94.7%、共済金額が95.0%となった。

(事故関係)

種類	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)		任意保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
			火災	風水害等			
火災共済	棟 122	万円 46,183,939	円 57,379,778	円	円	% 0.0124	
総合共済	78	5,683,499	13,993,965	44,466,439		0.1029	
計	200	51,867,438	71,373,743	44,466,439	34,751,987	0.0223	

建物共済原因別事故発生状況

事故の原因	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	任意保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
	棟	円	円	円	%	
落雷	99		17,711,567			
融雪	20		6,556,084			
強風	18		6,773,854			
風台風	14		13,518,591			
建物外部からの物体の落下等	17		1,372,917			
失火等	9		49,894,087			
建物内部の車両の衝突	9		622,592			
盗難による汚損・毀損	6		902,659			
給排水設備	3		844,921			
土砂崩れ	2		16,935,501			
大雨・豪雨	2		682,409			
車両の飛び込み	1		25,000			
計	200	518,674,380,000	115,840,182	34,751,987	0.0223	

(イ) 事故の状況

事故棟数は200棟（前年対比82.0%）、1億1,584万円（前年対比50.4%）の支払いで、昨年に比べ台風の影響が少なく棟数、共済金は減少した。うち全焼・全壊は5棟6,013万円の支払いとなった。また、落雷は99棟（前年対比123.8%）と増加した。

2 農機具共済
(引受関係)

加入台数	共済金額	共済掛金		一台当たり 平均共済金額
		純共済掛金	賦課金	
台	万円	円	円	万円
3,901	1,509,433	52,996,615	23,059,089	387

(ア) 引受の概況

加入台数は前年よりも366台増となり前年対比110.4%、共済金額は112.1%と増加した。

(事故関係)

事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 (ロ)/(イ)
台	万円	円	%
364	1,509,433	134,104,088	0.8884

農機具共済原因別事故発生状況

事故の原因	事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 (ロ)/(イ)
	台	円	円	%
接触	210	/	59,468,957	/
異物の巻き込み	105		41,646,579	
衝突	28		4,756,988	
その他(飛び石)	11		1,117,889	
転覆	3		12,629,417	
墜落	2		4,136,928	
火災	2		2,290,000	
横転	1		5,148,000	
獣害	1		209,330	
落雷	1		2,700,000	
計	364	15,094,330,000	134,104,088	0.8884

(イ) 事故の状況

事故台数は364台(前年対比127.3%)、共済金は13,410万円(前年対比135.6%)と増加した。
主な事故原因は接触、異物の巻き込みであった。